

## 産業機械のメイクが工場増設、省力化ロボなど強化

2018/5/9 0:30 | 日本経済新聞 電子版

組み立て機や検査機など産業機械を開発製作するメイク（浜松市）は浜松市北区の都田テクノ工場を拡大する。新たな建屋を設け、生産能力を2倍に増やす。人手不足に対応した省力化や次世代自動車の部品製造で高まる需要をつかみ、2018年8月期に13億円を見込む売上高を10年間で20億円規模に高める。

メイクは本社工場で産業機械の部品を製造し、都田テクノ工場で組み立てている。都田テクノ工場の敷地内に縦2階建てで延べ床面積約2100平方メートルの新たな建屋「第2工場」を設ける。

第2工場が完成すれば、都田テクノ工場の組み立てラインは4つに倍増し、生産能力もおおむね2倍になる。総事業費は4億円強を見込み、21年をめどに完成・操業したい考えだ。規模拡大に合わせて、現在20人弱の技術者も10年以内に30人ほどまで増やす方針。

メイクは多品種少量の生産に向くロボットシステムの開発・製造を得意とする。部品を扱う「ハンド」と呼ばれる部分を付け替えれば生產品目を変更できる。「人手不足の深刻化で需要が伸び続けている」（加藤光男社長）ため、生産能力を拡大して受注の機会損失を防ぐ考えだ。

近年受注が伸びている長さ数十メートルの大型ライン向けの製造に対応するため、広いスペースを確保する狙いもある。

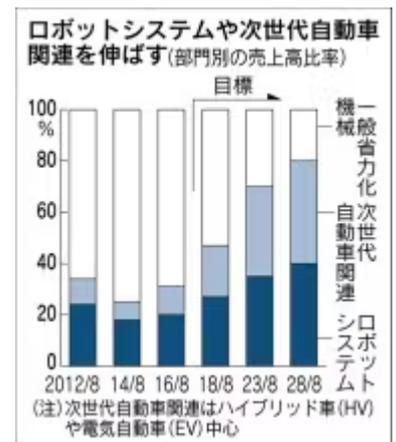
第2工場では主にハイブリッド車（HV）や電気自動車（EV）向けの電池やモーター、制御装置を製造する設備の試作機や量産機など、次世代自動車関連の機密性の高い製品を生産する方針。

「生産のテストや新規顧客の工場視察の要望も多い」（加藤社長）ため、機密性の高い生産設備を隔離することで顧客の安心感を高め、受注を拡大したい考えだ。

社内研修やテスト機能も強化する。8月をめどに、可搬重量7キログラム、20キログラム、175キログラムの多関節ロボット計3台を導入。社内の技術者研修で活用してロボット制御技



浜松市の都田テクノ工場の敷地内に第2工場を設ける



術の成熟を目指すほか、これまではロボットメーカーに持ち込んでいた顧客からの開発テストの要望も自社で迅速に対応できる体制を整える。

メイクは自動車や建機、半導体など幅広い分野の生産設備を手掛けてきたノウハウの蓄積が強みだ。今後も様々な分野の受注を続けながら大きな成長が見込めるロボットシステムや次世代自動車関連の受注を伸ばし、さらなる成長を目指す。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.